

審判員への道

大阪実業団バレーボール連盟

会 長 小比賀恵一

2013年9月「2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定」とのニュースが飛び込んできました。私たちスポーツ愛好者にとって大変大きなプレゼントであり、大きな感動と喜びをもたらしてくれました。日本のバレーボール競技は男女ともに過去のオリンピックで金メダルを獲得した実績を持っており、最近では2012年のロンドンオリンピックで女子が28年ぶりに銅メダルを獲得したのも記憶に新しいところです。そこで、2020年の東京オリンピックでは何としても男女ともに再びメダルを獲得してくれるものと大いに期待してやまないところです。

さて、大阪実業団バレーボール連盟では、いよいよ平成26年度の各種事業が始まりました。当連盟審判委員会ではこれらの事業を進めるために一人でも多くの審判員を養成すべく取り組んでおります。そこでバレーボールの審判に携わる皆さんやこれから審判員を目指す方々に審判員の心構え等について、私の思いつくままに記してみたいと思います。

審判員として活動するためには

1. バレーボールに情熱を持ち審判活動を楽しむ心を持つこと
2. 可能な限りバレーボール競技に接する機会を持つこと
3. バレーボールのルールと技術を熟知すること
4. 常にバレーボールに対する研究心を持ち審判技術の向上を目指すこと
5. 長時間にわたるゲームの審判が出来る健康な身体を持つこと
6. 平常心を失わず常に冷静な判断力を養い、感情等に左右されることがないこと
7. 判定にあたっては、両チームに対して公平であること
8. 自ら下した判定に自信と責任を持つこと
9. 担当したゲームの終了後は謙虚に反省する心を持つこと

等の心構えを持ち審判経験を重ねることが必要です。私自身はこれらの事柄を常に意識しながら審判活動が続けてきたつもりですが、それでも昭和43年にJVAのA級審判員に認定されてから国際審判員として引退するまでの20数年にわたる審判活動の中で自分が担当した審判結果で「今日は万全だった」と胸を張れる試合は残念ながら少なかったような気がしてなりません。しかし、自分が担当したゲーム終了後に両チームのキャプテンから握手を求められた時には本当に「自分が審判をしてきてよかった」という爽快な気分になったことが今でも思い出されます。皆さんがこれから審判台に上がるとき前述した事柄を心にとどめながら試合に臨むことによってゲーム終了後の爽快な気分浸りに浸っていけるものと確信しております。優秀な審判員とは、豊富な経験に裏打ちされた的確な判定技術と周りから納得してもらえるゲーム運営ができるよう常に努力を重ねる心構えを持つことです。

「努力は嘘をつかない」皆さんが楽しみながらのご活躍を期待いたします。